
『剣より強いモノで…』

忍野八雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『剣より強いモノで…』

【Zコード】

Z3338BA

【作者名】

忍野八雲

【あらすじ】

純愛モノれす。付き合つたことがない私がこんなの書くなんて滑稽よね。アーッハッハッハ。

「最近思つたんだ。俺お前のこと嫌いかも」

その先輩の言葉は私と先輩との間に壁を作った。

先輩と付き合つて1年。

中学2年の私にとつて初めての恋人となつていて、正直出来過ぎてるなつて思った。だつて、自分が憧れてる先輩がある日突然、私の前で付き合つて欲しいなんて言われたから。

そんなんある日。

急に言られたのだそんな、別れの言葉を。

その前に寒いギャグとか言つたわけじゃない。まして、先輩が言つてたのでも……。

でも、なんか急に、まるで遮るかのよつ、に。

しばらく、会つてないなあ。何日かなんて覚えてない。でも、会つてないのは確かだ。今、たぶん私は「嫌い」なんだろつな。先輩じやなくて自分が。

初めての体験だから戸惑つてるんだと思う。

でもそれは言い訳そう、言い訳だ。

自分が何をしたいのか、自分が何をされたいのかなんてわからない。初めてだからじやなくて、逃げてるから。

何度泣いたかわからない。何日学校をサボったかわからない……。何回先輩に会うチャンスを棒に振つたかわからない……。何回……

何回……。

一瞬だけ、そう一瞬だけ何も始まらなきや、何も知らなきや良かつたつて思つてしまつた。

……気がついたら自分のことを傷つけていた。奇声を発したんだろう、腕を何か所も切つたんだろう。自分を幾度も罵倒したんだろう。傷つけていたことはわかるけど、何で?なんてことはわからないぐらい、自分の中はグチャグチャになつていた。

一瞬でもそんなことを思つた自分が憎い。そんなの漫画の中だけだと思つてた。小説に出てくる悲劇のヒロインだけだと思つてた。でも、そうなると今自分はいつの間に悲劇のヒロイン~~気取り~~になつていたんだろ?。

始まらなきやよかつた?

そしたら、あの幸せな時間はどうへ行くの?

知らなきやよかつた?

そしたら、私のこの無氣力で幼稚でじょうがなく誰かのためだと虚言を抜かしながら、実は自分のことだけだつたつていう自分は?

そう思つたら、また、涙が出てきた。悲しかつたのか、苦しかつたのかわからない。だけど、その後はすつきりした。
そつままで悩んでた自分を嘲笑つてしまつぐらう。

そうだ、先輩に会いに行こう。

本当に嫌われても振り向かせてやる。自分がどれほど悩んだか苦しんだか言つてしまおう……。そして、謝ろうとしたら脣で抑えてしまおう……。それが、ファーストキスになるけど、それでも私は構わない。だって、あげるべき相手が見つかったから。

「……くつや」

自分の日記とはいえないここまでクサイことが書けたな。……確かにホントにあったことだけど。うう……書いてて体が火照ってきたよ。

ま、いいや。

とりあえず先輩にメールだ。待ち合わせ場所は、つと。

The other story

another story

「最近思つたんだ。俺お前のこと嫌いかも」

俺は何言つてんだ? 何も分かつてない癖に。

「こんなこと言つたら傷付くに決まつてんだろ? それなのに……」

俺は何も言えなまま家に帰つていた。あいつとは付き合つて一年になるが、いくら俺がバカとはいえこれほど馬鹿な事をしたと思える日はない。なぜあんなことを言つたかといつと、

泣いた顔が見たかったから

正直フオロー入れて終わりにしようと思つてた。でもまさか何も言わざ走り去つてくとは。後悔先に立たずだけか?

俺は中学3年になり、改めて実感した。

中学3年というのは後悔の年だ。スポーツで後悔し、文化祭で後悔し、今日も後悔して……。

たかが、あんなことのために、俺は自分の最愛としている女性を傷つけた。

その事実が、ぐさりと穴を作つた。

次の日会おつと想つてあいつの教室に行つたが休んだらしい。

次の日も次の日も休んでて、来たのが5日後だった。

でも、来てるのにすれ違つてしまつ。避けられてんのかなあ？

家に帰つて俺はメールを送る。返事はどんなに待つてもナシ、どうも電源を切つているようだ。

『どうすればいいかわからないよな』

その一文をもう一人の俺が語りかけてくる。

理由を聞くと、

『おまえ、誰かを好きになつて誰かと付き合つのなんて初めてだろ？』

俺は俺にムカついた。それつて単に逃げてるだけじゃねえか！

そう言つこと言つてれば逃げると思つてんのか！？

『さあ？そんなの知らねえよ。だって、お前が動いてないじやないか』

その答えに絶句した。いや、絶句したというのは違うだろう。気付くと俺はグチャグチャになつた自分の部屋にいた。机に置いてある本とか参考書とかを力任せに叩き落とし、どつかの角や壁に自分の頭を打ち付けていたんだろう。じびりつく血が生臭いかった。

……事實を知つた時。

それが自分の予想を超えていれば超えているほど衝撃が大きく、それを受け流すために、破壊を望む。

そう、俺は思つてしまつた。

スッキリはしたが、寂しかつた。あいつがもつと恋しくなつた。いつもみたいに頭を撫でてやりたかつた。あいつが俺のほうを振り返るところが見たくなつた。

そして、俺は本当の意味で会おうと思つた。心から向き合おうと思つた。

そしたら頃合いを見計らつたかのようごメールがきた。
差出人は……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3338ba/>

『剣より強いモノで…』

2012年1月8日18時51分発行